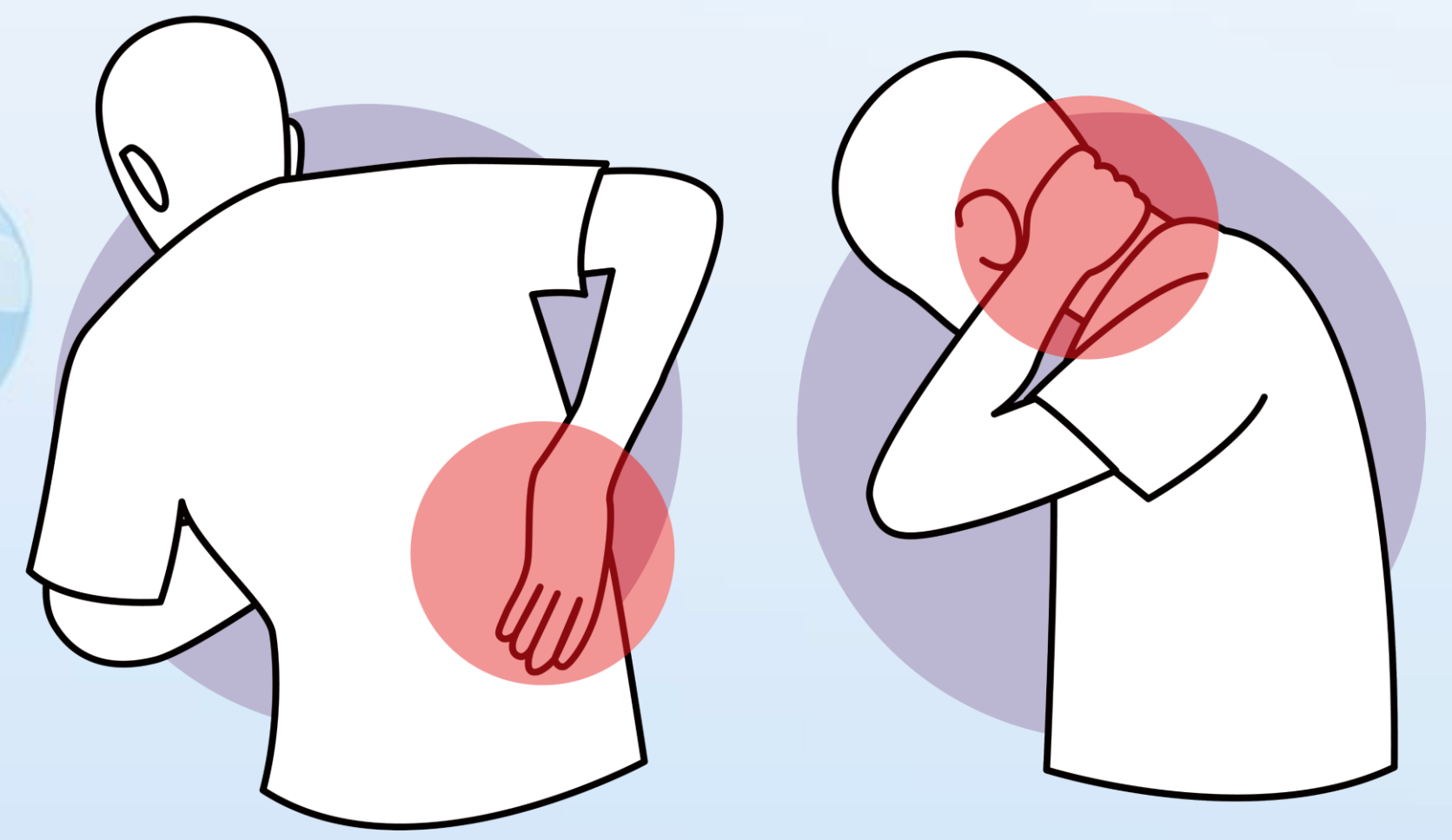


このようなお悩みの方に

- ・ 椎間板ヘルニアが原因で腰下肢痛や頸上肢痛に悩まされている
- ・ 椎間板ヘルニアの手術を検討しているが手術をしたくない
- ・ 椎間板ヘルニアの手術で入院をしたくない
- ・ 身体への負担が少ない治療を望んでいる



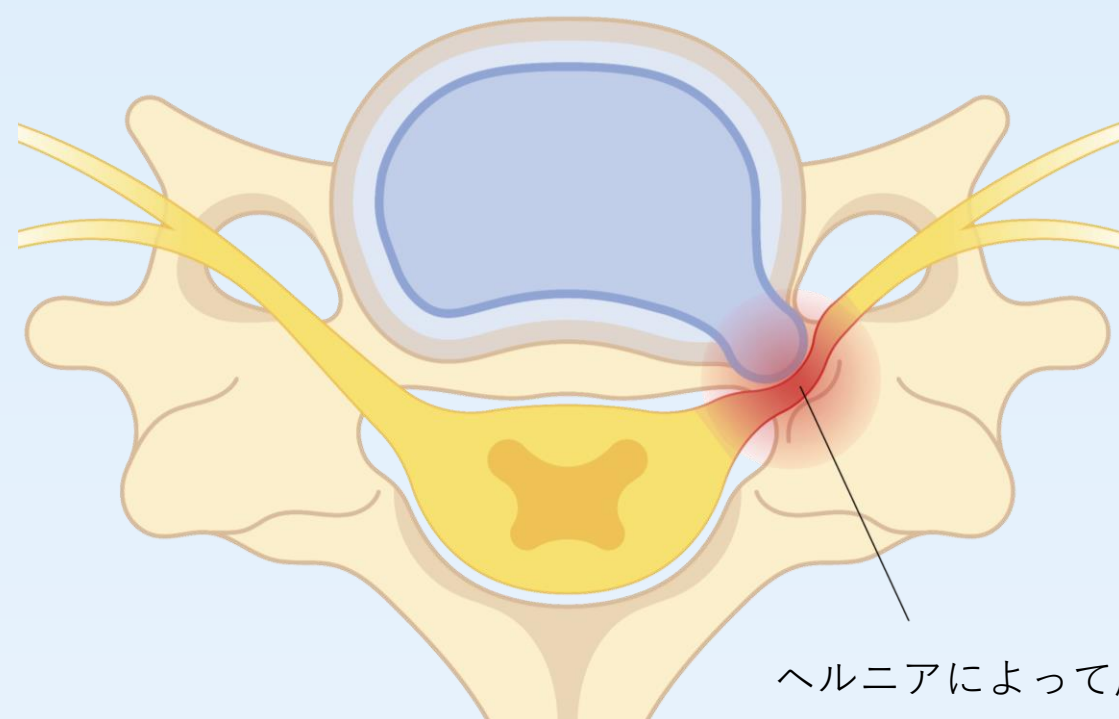
椎間板ヘルニアの日帰り手術が可能に PLDD 経皮的レーザー椎間板減圧術 Percutaneous Laser Disc Decompression

PLDDの治療方法

治療時間15分 ・ 治療後1時間で帰宅

局所麻酔後、1mmの針を椎間板に刺してレーザーファイバーを通し、ヘルニア膨隆部にある髄核の蛋白質を蒸散させ減圧を図ることで、神経圧迫を弱めて痛みを緩和させます。
施術時間は約15分。術後に1時間休んだ後はその日のうちに帰宅できます。

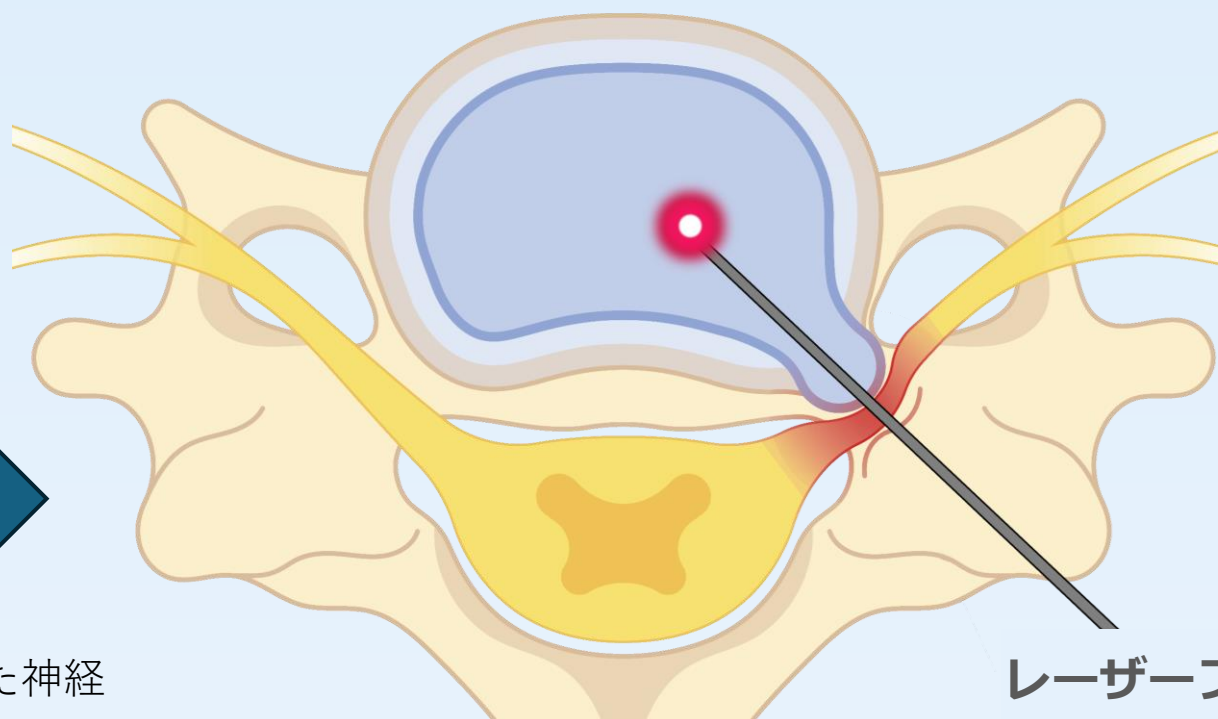
治療前



ヘルニアによって圧迫された神経

椎間板中の髄核が、外に飛び出てしまい神経を圧迫し痛みが発生する

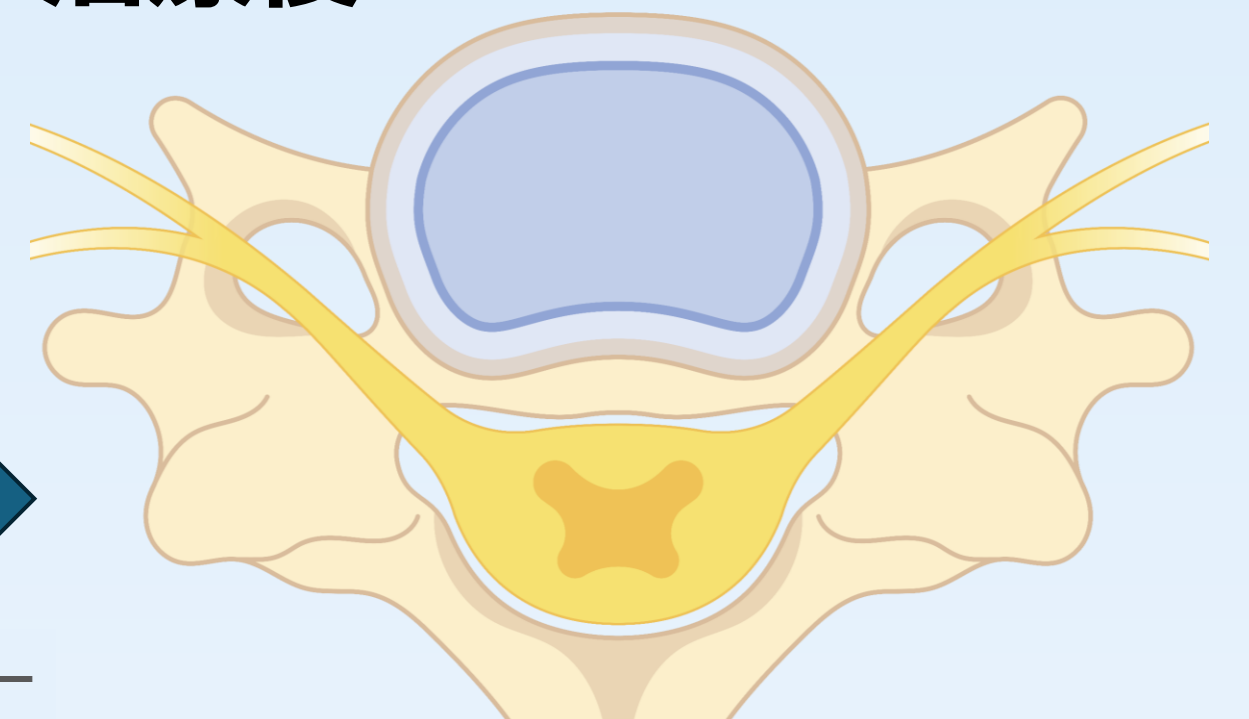
治療



レーザーファイバー

椎間板の中にある髄核をレーザーで蒸散することで、空洞を作ります

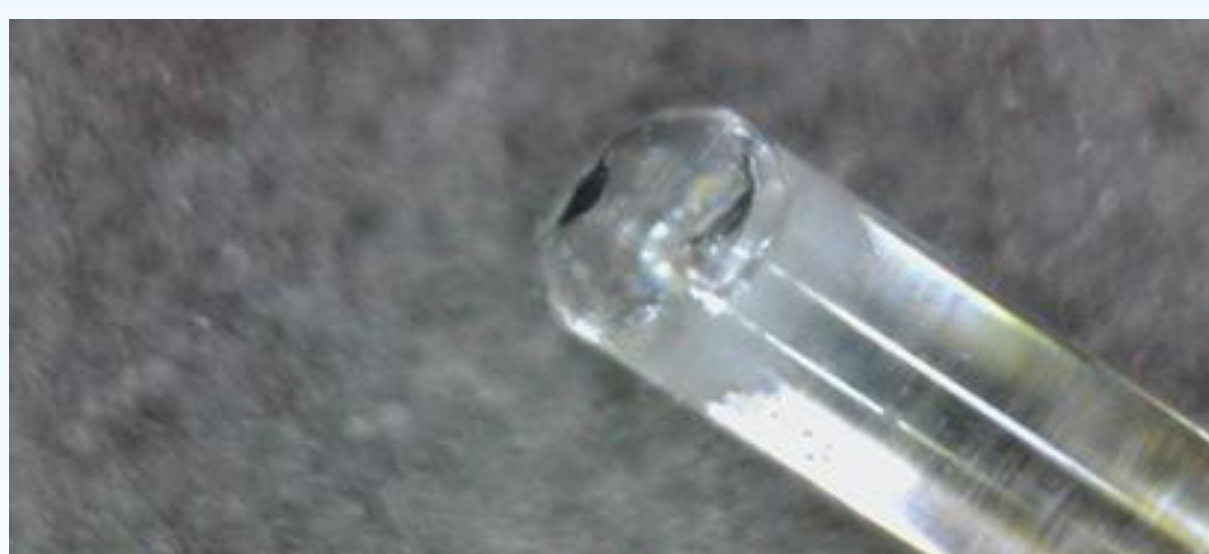
治療後



飛び出した椎間板を縮ませて神経の圧迫を軽減します

最新のレーザーファイバー

導入したNoris Medical社が提供する最新レーザー機器は、レーザーファイバーの先端がアーチ状となっていることがポイントで、従来のような直進的なレーザー照射ではなく、プラズマ光で治療部分だけ焼灼する事が出来、安全性が高く椎間板の減圧を確実にできるほか、患部様の位置に合わせた最適な波長の設定が可能になっています。

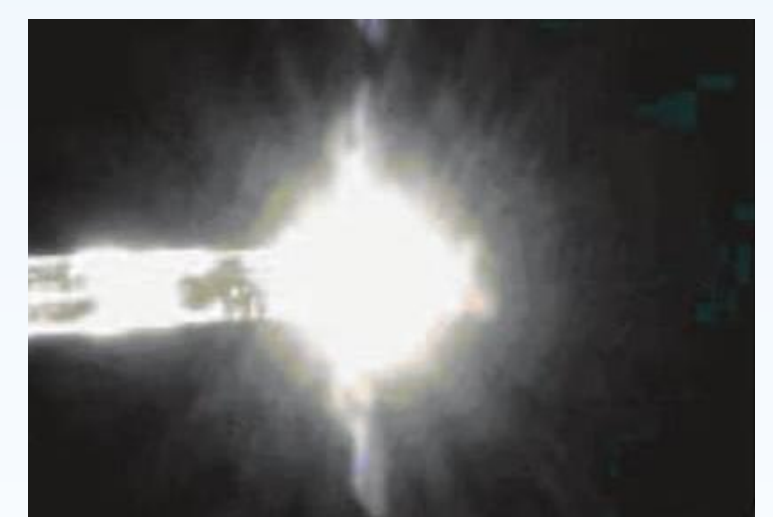


レーザーファイバー先端拡大図

アーク放電加工を施すことで先端がアーチ状となっている



従来のレーザー照射は直進的であり
目標部位をターゲットに出来ない



プラズマ光で治療部分だけをターゲットに
安全で確実な治療が可能になる

手術費用

- PLDDは自由診療です
- 1カ所の治療費用は35万円(税別)となっております
- 2カ所治療する際は5万円(税別)追加になります
- 別部位（頸部+腰部）の場合は、各部位ごとに35万円(税別)

手術のリスク・副作用等について

脊椎の手術では主に以下のリスクがあります

- 術部への菌付着による感染
- 神経損傷
- 術後血腫（術後の出血が神経を圧迫する）
- 血栓症など

手術に関するリスクについても詳細に説明いたします。まずはお気軽にご相談下さい。
痛み治療センター ペインクリニック外来